

## 私と口癖

村上市立朝日中学校 3年 佐藤 花南子

「だからー。」

これは私の口癖です。みなさんは、このような言葉をつかったことはありますか。うまく話が伝わっていなかったときに私はつかいます。この言葉をつかうときは大抵、心の中はもやもやしています。なぜ、自分の思っていることを言葉にすると、上手く伝わらないのか、と悩んでいました。相手が話を聞いていないから伝わらないのではないかと思ったこともあります。

ところが、ある日の姉との会話で「話が伝わらない」理由が、自分にあることを知ったのです。姉と二人で買い物に行った後日、お互いが「可愛い」と共感した服の会話になりました。

「昨日見た服可愛いかったよね。」

と私は言います。私は小花柄でロング丈のワンピースを想像していました。姉も私と同じ服を想像していると思っていました。しかし、必ずしも、姉と私が想像する服が、一致するとは限りませんでした。

「どこの店の服？」

姉から聞き返されましたが、姉も私も可愛いと思った服があったのは一店だけでした。

そこで、私の口癖「だからー」がつかわれたのです。このときも、私はなぜ姉と話が合わないのか、と疑問に思いました。しかし、ある時、姉に言われたのです。

「あんたの話は言葉が足りない！」と・・・・・・・・。

私が言葉を省く理由としては、三つあげられます。

まず一つ目は、自分の中では分かりきっていることだからです。分かっているから、相手にも伝わっていると思い込んでしまい、言葉を省略してしまうのです。

二つ目は、親しい仲だからです。思い返してみれば、先生やあまり親しくない人には、言葉を省略せず、丁寧に話していました。親しくない人には、話を

理解してもらおうのが難しいと覚っているところがあります。反対に、家族、仲良くしてくれる友達には、なぜかすぐに話を理解してもらえらると思ひ、言葉を省いてしまうのです。

そして、三つ目は、文脈や雰囲気から考えて分かると思っているからです。さきほどあげた例でも、私は二人が「可愛い」と共感したときの服を指しているわけですから、「どの店の？」と、聞かれても、「何で分からないのかな」と思ってしまう。

このような理由で、「だからー」などと自分勝手な返事をしてしまうと、険悪な雰囲気になってしまいます。親しい仲でも、相手のことを考えずに言葉を省略してしまうのはよくないと私は気づきました。

日本には昔から「阿吽の呼吸」というものがあります。自分以外の人と何かをするとき、相手の微妙な心の変化や考えていることが「一致する」ということです。最近では、似たニュアンスで「空気を読む」という言葉があります。「空気を読む」とは、相手の考えていることや気持ちを読みとり、「一致させる」ことを意味します。自然に一致するのではなく、意図的に一致させるという風に解釈することもできます。

なぜ現代の人たちは合わせよう、つまり、「空気を読もう」とするのでしょうか。それは、「空気を読まなければいけない」状況や環境をつくりだしてしまっているからだと考えます。「言葉」を省略して、コミュニケーションをおろそかにすることが、「言葉だけを頼りにすることができないから、場の空気を読む」必要性がある状況をつくりだしているのです。

私も、姉との会話では、「空気を読んでくれる」ことを期待していました。しかし、自分の思い込みや勝手な判断では、話は通じません。話をきく人、相手を意識して話す必要があり、そうすることで初めて、「空気を読まなくてもよい」状況が実現されるのです。

言葉を省略せず、相手を意識して伝わりやすく、丁寧な言葉を選ぶ。それが、良好な人間関係を築く第一歩になります。これからは、私の口癖「だからー」を使うことは、ありません。